

令和4年度 日野市立日野第七小学校経営重点計画				自己評価シート		令和4年6月公表
★学校の教育目標				◎自分の力で考える子 ◎思いやりのある子 ○力いっぱいやりとおす子 ○じょうぶなからだをつくる子		★重点計画の概要 「まいにち笑顔みんなが笑顔」をキャッチフレーズに、「自分から考え動く、みんなで対話をしながらつくりあげる、学び合い、わくわくが広がる学校」を具現化するために、学校教育の根幹となる授業を改善し、「学び」・「いのち」・「健康」の教育の充実を図る。そのために、「地域」との連携を強化し、「特別支援」教育の充実と教員の「働き方」を改革する。
★目指す学校像（ビジョン）						
【めざす児童像】 ○自ら学び、自ら課題を見つけ、課題に向かって多様な考えをもち、解決することができる子 ○挨拶や言葉遣いを大切にし、友達と認め合い、助け合える子 ○明るく元気に活動し、最後までやり遂げようとする子 ○健康・安全に気を付け、めあてをもって生活する子 ○みんなで対話し、つくりあげていく学校 ○安全・安心な学校 ○明るく楽しく笑顔あふれる学校 ○互いに切磋琢磨し、向上を目指す学校 ○地域や保護者に愛される学校						
【めざす学校像】 ○主体的な学習意欲を喚起する教員 ○望ましい人間関係づくりに努める教員 ○保護者の信頼・協力を得るよう努める教員						
領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標		成果指標
学 び	個別最適な学び（自立的に学びを進める学習）と協働的な学び（学校ならではの対話を生かした学習）の一体的な充実を図る。	児童が、個別最適な学びや協働的な学びを進められるように、指導方法や教材・教員を工夫し、多様な学習活動や学習課題を取り込んだ授業改善を行う。	○すべての教員が、自己申告書に個別最適な学びと協働的な学びの充実を図るための授業改善の取組を記載する。 ○年2回の授業観察では、作成した指導案及び授業予定を全教員で共有し、相互に授業観察ができるようにする。授業後は、個別最適な学びと協働的な学びの視点で改善案を協議する。 ○校内研究では総合的な学習の時間及び生活科を中心に、年3回の研究授業を行い、地域とのかかわりをもたせた協働的な学びを行う。	4 「自立的な学びや対話的な学びのための授業の工夫を行っている。」教員が100%	4 「先生は、自立的な学びや対話的な学びの授業を行っている。」保護者の肯定的回答が80%以上	
				3 「自立的な学びや対話的な学びのための授業の工夫を行っている。」教員が90%以上	3 「先生は、自立的な学びや対話的な学びの授業を行っている。」保護者の肯定的回答が75%以上	
				2 「自立的な学びや対話的な学びのための授業の工夫を行っている。」教員が80%以上	2 「先生は、自立的な学びや対話的な学びの授業を行っている。」保護者の肯定的回答が70%以上	
				1 「自立的な学びや対話的な学びのための授業の工夫を行っている。」教員が80%未満	1 「先生は、自立的な学びや対話的な学びの授業を行っている。」保護者の肯定的回答が70%未満	
				4 「一人一台端末を活用し、児童の学習意欲を高めている。」教員が100%	4 「先生は、一人一台端末を活用し、児童の学習意欲を高めている。」保護者の肯定的回答80%以上	
い の ち	児童が教育活動全般を通して、自他の“いのち”を大切にし、互いの人格を尊重して認め合う態度を育てる。	挨拶や言葉遣いの指導を通して、相手を大切にすることを育て、「思いやり」の行動を起こせる児童を育てる。	○「思いやりのある子」を教育目標の重点とし、各種行事や異学年交流において人とかかわり方を重視した指導を行う。 ○代表委員会を中心にした挨拶運動を実施し、教員も参加する。 ○挨拶や言葉遣いを指導し、相手を大切にすることを育成する。 ○「ボカボカ言葉」「くんさんづけ」「時と場に応じた受け答え」を学校全体の共通認識として指導する。 ○生活の中で正しい言葉遣いをしている姿をほめ、相手を思いやる姿につながっていることを継続的に指導する。	4 「挨拶や言葉遣いの指導を通して、思いやりのある子を育てている。」教員が100%	4 「学校は、あいさつや言葉遣いの指導が適切にできている。」保護者の肯定的回答が85%以上	
				3 「挨拶や言葉遣いの指導を通して、思いやりのある子を育てている。」教員が90%以上	3 「学校は、あいさつや言葉遣いの指導が適切にできている。」保護者の肯定的回答80%以上	
				2 「挨拶や言葉遣いの指導を通して、思いやりのある子を育てている。」教員が80%以上	2 「学校は、あいさつや言葉遣いの指導が適切にできている。」保護者の肯定的回答75%以上	
				1 「挨拶や言葉遣いの指導を通して、思いやりのある子を育てている。」教員が80%未満	1 「学校は、あいさつや言葉遣いの指導が適切にできている。」保護者の肯定的回答75%未満	
				4 「学級経営の中でいじめや不登校を防止する取組を指導・実践している」教員が100%	4 「『まいにち笑顔みんなが笑顔』で過ごしている。」児童の肯定的回答100%	
健康	運動への関心を高め、体を動かす心地よさを味わい、心身ともに健康な児童を育てる。	体育の授業改善や休み時間等における運動の日常化を図ることで運動好きな児童を育てるとともに、自ら感染症等に対して予防ができる児童を育てる。	○人権教育全体計画及び年間指導計画をもとに全学級で指導を行い、「いのち」の大切さに気づき、自分の良さ・相手の良さを見付けられる児童を育てる。 ○年3回のふれあい月間において全児童にアンケート調査を実施し、いじめの早期発見に努めると共に、いじめ防止の教職員研修を実施する。 ○「まいにち笑顔みんなが笑顔」をキャッチフレーズに、全学年・学級経営を進めるとともに、SCIによる面談やエンカウンター授業を行う。	3 「学級経営の中でいじめや不登校を防止する取組を指導・実践している」教員が90%以上	3 「『まいにち笑顔みんなが笑顔』で過ごしている。」児童の肯定的回答95%以上	
				2 「学級経営の中でいじめや不登校を防止する取組を指導・実践している」教員が80%以上	2 「『まいにち笑顔みんなが笑顔』で過ごしている。」児童の肯定的回答90%以上	
				1 「学級経営の中でいじめや不登校を防止する取組を指導・実践している」教員が80%未満	1 「『まいにち笑顔みんなが笑顔』で過ごしている。」児童の肯定的回答90%未満	
				4 「ねらいを明確にした体育授業を行ったり、健康に関する指導をしている。」教員が100%	4 「子供は、運動への関心を高めたり、健康を意識して過ごしている」保護者の肯定的回答80%以上	
				3 「ねらいを明確にした体育授業を行ったり、健康に関する指導をしている。」教員が90%以上	3 「子供は、運動への関心を高めたり、健康を意識して過ごしている」保護者の肯定的回答75%以上	
地域	地域で学び、ともに活動することで、自らすすんで地域社会に関わろうとする態度を育てる。	家庭と地域の教育力を生かした創意工夫のある取組を行い、学校を中心としたつながりを広げていく。	○体力テストの結果を分析し、2学期以降の体育授業に生かしていく。 ○休み時間には外で遊ぶ習慣を付けさせ、健康や体力の保持増進に努める。 ○毎月1回の体育朝会において長縄記録会を行うことを通して、運動の日常化を図る。 ○感染症や熱中症における対応を自己判断できるよう指導する。	2 「ねらいを明確にした体育授業を行ったり、健康に関する指導をしている。」教員が80%以上	2 「子供は、運動への関心を高めたり、健康を意識して過ごしている」保護者の肯定的回答70%以上	
				1 「ねらいを明確にした体育授業を行ったり、健康に関する指導をしている。」教員が80%未満	1 「子供は、運動への関心を高めたり、健康を意識して過ごしている」保護者の肯定的回答70%以上未満	
				4 「学年・学級で地域に関わる活動を企画し、実施している」教員が100%	4 「学校は、外部人材を活用したり地域に関わる活動を行っている。」保護者の肯定的回答65%以上	
				3 「学年・学級で地域に関わる活動を企画し、実施している」教員が90%以上	3 「学校は、外部人材を活用したり地域に関わる活動を行っている。」保護者の肯定的回答60%以上	
				2 「学年・学級で地域に関わる活動を企画し、実施している」教員が80%以上	2 「学校は、外部人材を活用したり地域に関わる活動を行っている。」保護者の肯定的回答55%以上	
特別支援	一人一人に寄り添った誰にでも分かりやすい授業を推進する。	「ひのスタンダード」に基づき、「分かる授業」を推進するため、ユニバーサルデザインの視点に立った授業改善を図る。	○「焦点化し、ねらいをはっきりとつかませる」「視覚支援をする」「共有する」などの特別支援教育の視点に立ち、分かる授業を創造する。 ○ICTを活用した授業を展開し、学習課題への興味関心を高めるとともに、課題解決を通して学習意欲の向上につなげる。 ○ステップ教室・リソースルームの担当者、及び保護者との連携を密にし、指導目標を明確にすることで個に応じた指導の充実を図る。	1 「学年・学級で地域に関わる活動を企画し、実施している」教員が80%未満	1 「学校は、外部人材を活用したり地域に関わる活動を行っている。」保護者の肯定的回答55%以上未満	
				4 「ICT機器の活用やUDの視点で誰にでも分かりやすい授業を工夫している。」教員が100%	4 「授業は、分かりやすくて楽しい」児童の肯定的回答95%以上	
				3 「ICT機器の活用やUDの視点で誰にでも分かりやすい授業を工夫している。」教員が90%以上	3 「授業は、分かりやすくて楽しい」児童の肯定的回答90%以上	
				2 「ICT機器の活用やUDの視点で誰にでも分かりやすい授業を工夫している。」教員が80%以上	2 「授業は、分かりやすくて楽しい」児童の肯定的回答85%以上	
				1 「ICT機器の活用やUDの視点で誰にでも分かりやすい授業を工夫している。」教員が80%未満	1 「授業は、分かりやすくて楽しい」児童の肯定的回答85%未満	
働き方	教職員が明るく健康に働くことで、教育活動の質的向上を図る。	教職員の年間超過勤務時間を減らすとともに、年休取得率を上げること、ライフ・ワーク・バランスを推進する。	○すべての教員が、自己申告書に自身の働き方改革の取組目標を記載し、ライフ・ワーク・バランスの意識を高める。 ○毎月の超過勤務時間を確認し、月上限時間を超えている教員とは面談をとおして職務の把握と整理をする。 ○スクールサポートスタッフの積極的活用を進め、事務作業の軽減を図る。 ○会議資料のデータ化・事前配布により、会議時間の縮小を図る。	4 「ライフ・ワーク・バランスを意識し、健康に職務にあたっている。」教員が100%	4 「学校の教育活動は、『まいにち笑顔みんなが笑顔』が感じられる。」保護者の肯定的回答95%以上	
				3 「ライフ・ワーク・バランスを意識し、健康に職務にあたっている。」教員が90%以上	3 「学校の教育活動は、『まいにち笑顔みんなが笑顔』が感じられる。」保護者の肯定的回答90%以上	
				2 「ライフ・ワーク・バランスを意識し、健康に職務にあたっている。」教員が80%以上	2 「学校の教育活動は、『まいにち笑顔みんなが笑顔』が感じられる。」保護者の肯定的回答85%以上	
				1 「ライフ・ワーク・バランスを意識し、健康に職務にあたっている。」教員が80%未満	1 「学校の教育活動は、『まいにち笑顔みんなが笑顔』が感じられる。」保護者の肯定的回答85%以上未満	

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。